

平成27年北栄町議会議員研修報告

1. 日 時	平成27年10月27日(火)～29日(木) 2泊3日	
2. 調査地	鳥取県八頭町・大阪府柏原市・大阪府泉南市・京都府綾部市・兵庫香美町	
3. 調査内容	( 内 容 )	( 場 所 )
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6次産業化の取組みについて (直営カフェ・通信販売)</li> <li>・ 6次産業化の取組みについて (ワイナリー・地域協同によるぶどう栽培)</li> <li>・ 6次産業化の取組みについて (障がい者雇用の促進にむけた農福連携の取組み)</li> <li>・ 水源の里事業の取組みについて (限界集落の維持・再生にむけた取組み)</li> <li>・ ふるさと教育の推進について (学校・地域における取組み)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ (有)ひよこカンパニー</li> <li>・ カタシモワインフード(株)</li> <li>・ ハートランド(株)</li> <li>・ 綾部市役所 (定住交流部 地域振興課)</li> <li>・ 香美町役場村岡地域局 (香美町教育委員会)</li> </ul>
4. 調査結果 又は概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>有限会社ひよこカンパニー</b> 平飼いと独自の飼料で生産したこだわりの卵「天美卵(てんびらん)」を使ったスイーツを現地で販売し、全国から年間約10万人が訪れる。その「天美卵」は創業の平成6年以来、1個100円、1パック1,000円での通販に徹し、現在18万人の登録者を数える。従業員は約100人をおかえ、地域の雇用に貢献している。通販商品として県内の梨や白ネギ、牛乳、蟹、玉子の加工品(スープ等)も手がけ、収益確保に一役買っている。 経営理念の一つとして「地域との共生」を掲げており、地元集落はもちろん地元の生産者や他業種の生産者と連携を取っている。こだわりの飼料は、地元産飼料用米や米ぬか、豆腐粕の「おから」、魚粉を調達し、発酵させた上で与えている。鶏糞は堆肥化した上で、安価で地元野菜生産者に提供するなど「循環型経営」が行われている。唯一のウイークポイントは、「鳥インフルエンザ」の感染であり、リスク分散のため養鶏場の分散と防疫に細心の注意を払うという。 6次産業化の優良事例として、野村アグリプランニング&amp;アドバイザー(株)の平成25年食糧産業局長賞を受賞している。</li> <li>・ <b>カタシモワインフード株式会社</b> 同社のコンセプトは、『地元産ぶどうにこだわり、地元人で製造・加工する』ことである。地域に複数のワイナリーがあったほうが、より多くの集客が見込める。現地でイベントを連発し、集客、商品販売につなげることである。イベントは、地元大阪周辺のレストラン(複数)とタイアップし実施している。6次産業化の課題は「販路確保」である。そのためにも、背後地である大都市・大阪市民をいかに取り込み、いかに売り込むかが成功のキーポイントと踏んでいる。 ぶどう栽培でも、ワイン販売でも、過去の事例から「共同化」は無責任になり失敗するので、あくまで個々で取組むべきである。販路拡大は、顧客のロコミが確実で、しかも安定している。</li> </ul>	

#### ・ハートランド株式会社

文房具の老舗（株）コクヨが、平成 19 年に農業生産法人：ハートランド（株）として創業した。従業員は、主に知的・精神の障がい者 9 名を含む 19 名を雇用し、「農福連携」を実践している。空調設備を施した本格的なガラス温室棟で、サラダホーレン草を無農薬・水耕栽培している。年間 60 t を出荷し、年商は約 7～8,000 万円である。

6 次産業化としてホーレン草を加工したスープを商品化しているが、生産量が少なく販路は確立しておらず、苦戦をしている。現行の販路は、コクヨ本社及び支社の社員食堂で使用ならびに販売のみである。本社経理部署から黒字化を求められているが、至難の業のようである。

ハートランドとしては、知的・精神の障がい者の自立を目標に掲げており、当分の間、経営の独立化といかに折り合いをつけるか、正念場であろう。一方、当該事業運営は、コクヨグループにとっての「企業のイメージアップ」には十分貢献しており、単純な費用対効果論だけでは見切りはつけられないと考えられ、さらなるステップアップが求められるであろう。

#### ・綾部市定住交流部 水源の里・地域振興課、水源の里古屋集落

昭和 25 年 8 月 1 日、市制を施行、以降昭和 30 年代に 2 度の編入合併を経て今日に至る。人口は昭和 25 年に 54,005 人をピークに減少し、平成 27 年には 33,780 人となり、高齢化率も平成 26 年 3 月末で 34.68%と過疎化に歯止めがかからない。

市では平成 19 年 4 月、195 の 限界集落を対象に 5 年間の時限条例「水源の里条例」を施行し、振興策を展開しようと呼びかけた。条例の 4 つの目標は①定住促進（空き家の掘り起こしやU・Iターンへの定住支援給付金の交付など） ②都市との交流（都市住民との交流イベントの開催、貸し農園、オーナー制度、農家民泊、農業体験事業の実施など） ③地域産業の開発と育成（水源の里の資源や技術を活用した特産物の開発、加工、販売など） ④地域の暮らしの工場（生活基盤の整備、光通信の整備、地デジ対応、携帯電話不感知の対応など）とし、やる気のある集落に財政支援等を行うこととした。当初まず 5 集落が手を挙げ、続いて平成 24 年度の第 2 期に 9 集落が手挙げし、計 14 集落が限界集落からの脱却を目指して、事業に取り組んでいる。

その結果、徐々にではあるが成果の現れる集落もあると聞かすが、全体としての評価としては、事業をやって現状維持、やらなければますます「限界」が進み、残念ではあるが「廃村」止む無し、と感じた。もう少し時限延長を試みる必要があるのではないかと。

#### ・香美町教育委員会

今回の視察のテーマではないが、平成の合併により 3 町が合併し、人口約 20,000 人に対し、面積 369.08K㎡（鳥取県日南町が面積 340.87K㎡でほぼ同規模。人口は約 5,300。）と広大なエリアを有することとなり、過疎地をかかえての「教育施設の維持及び管理」について、調査してみた。

町内に小学校 10 校+1 分校=11 校、中学校 4 校、幼稚園 9 園、公立認定子ども園 2 園、私立保育園 5 園、学校給食センター 3 所を現有。さらに社会教育・体育施設として、中央公民館 3 館、地区公民館 9 館、海洋センター 1 所、体育館等 5 館、公園・広場 3 園、天文館 1 館、資料館 1 館、文化会館 1 館 の計 24 施設があり、公立の合計で 53 施設をかかえている。財政面から検証すると、平成 26 年度一般決算でも、北栄町との違いが顕著に現れている。香美町では「教育費」が全体決算額の 17.9 パーセントを占めているのに対し、北栄町では 8.0 パーセントである。他方、香美町の「民生費」が全体決算額の 16.4 パーセントに対し、北栄町は 29.5 パーセントである。この違いで、どちらの町の運営が「適切」かを問うているのではない。

確かにこの施設数は、北栄町からみれば異常に多いと思われるが、過疎地を含む広大な合併を選択された香美町では、合併時から想定されていたことであり、やむ終えなことであろう。大切なことは、わが町としてはこのことを教訓に、ますます行財政改革を進めながら、さらに、よりよい町づくりに邁進しなければならないと感じた。

**【所 管】**

今回の視察研修を通じて「6次産業化」の奥の深さを痛感した。

感じたことは、どうやら行政が出過ぎると「失敗」する、ということである。起業者が如何にやる気を出すかで、勝敗が決すると感じた。また、起業したら、浮き沈みに絶えることが慣用である、とも教えられた。行政としては、この間を、如何に支えるかの見極めが大切であろうと感じた。